社　会　科　学　習　指　導　案

日　時　２００７年１１月２日（金）
児　童　富良野市立扇山小学校
　　４年２組　２３名
指導者　教　諭　松浦　達也
場　所　　４年２組教室

１　単元名　「ごみはどこへ」
２　子どもの実態と社会科で目指す子ども像

児童の実態
①ごみについて
・ごみが分類されて処理されていることを
　知っている　ー　１９人　知らない　ー　４人
・自分の出したごみがどこに運ばれているか
　知っている　ー　５人　　知らない　ー　１８人
・ごみが最後はどうなるかを
　知っている　ー　２人　　知らない　ー　２１人
②その他富良野のごみのことで知っていることがあったら書いてください
・牛乳パックがトイレットペーパーになる　２人
・袋の種類がたくさんある　２人
・最後は埋め立てる　１人
・最近，きちんと分類されなくなってきている　１人

ごみは，子どもたちにとって非常に身近な教材である。富良野市がいち早くごみのリサイクルに取り組んだことは周知の事実であるが，子どもたちは富良野市がごみの処理に真摯に取り組んでいることに気付いていない。「リサイクル」は「リサイクルショップ」と結びついてしまうようである。今形あるものを，そのまま再利用することが「リサイクル」であるととらえている児童が多い。

普段の生活の中で「分別」していることを知っていながら，そして，分別を毎日していながら分別がなぜ行われているのかについて知っている児童は少なく，考えたことのある児童も非常に少数である。よって，この単元は「ごみ」という教材の力を借り、社会科の学習を通して子どもたちと地域社会を結びつけるいい機会であると考えた。

本単元は以下の２つが大きな柱である。①実際に処理施設に行って調べ活動を行い，ごみ処理の方法や人々の活動について気付き，それをまとめること　②ごみの処理に関わる地域の人々（例えば町内会長さん）の苦労や思いを知ることにより，社会的事象を自分ごととして考えていくことである。

本学級の児童は，調べ学習には大変積極的である。しかし，調べ学習で得た知識・情報を活用してまとめ，自分の考えを，根拠をもとに表現することを苦手としている。そこで，課題の追究がしやすいように，子どもたちには見学の際，自らの課題を一つ設定させ，それを解決するキーワードを３つ（人・設備・結果）さがすよう指示した。また，まとめ学習はその結果において個人差が大きいことから，本単元では，雛型を３通り作成し，自分がまとめやすいものを選択する形をとった。このことにより，課題解決の方法・順序が図式化されると考えたためである。

また，４観点の評価規準をもとにし，それぞれの学習活動・場面において適切な指導・助言を行いたい。子どもたちの８割は社会科が好きと答えている。調べ活動・暗記などは得意・好きと答えた児童は８割以上に対し，半数以上が「調べたことを元にまとめをする」「調べたことを根拠に話し合いをする」ことを苦手としており，主体的に社会を見つめ，関係を築こうという態度が社会科を通して身に付いているとは言い難い。このごみという身近な単元を通して，そのような態度を育てていきたい。

４年生社会科で目指す子ども像	地域社会の中で，よりよい生活を作り出そうと努力している人々の営みについて調べ，その意味を考えたり，その良さに共感したりしながら，地域社会に自ら参加しようとする子ども。
本単元で目指す子ども像	ごみの処理をとおして，地域の健康や安全を守る人々の思いや努力を知り，自らも地域社会の一員であることを理解し，自覚ある行動をしようとする子ども。

３　研究の視点との関わり

（１）人間の営みに絞り込む教材化

富良野市の高いリサイクル率を支えている陰には，「ごみのない富良野市に」と願う，地域の健康や安全を守る人々の存在がある。リサイクルセンターの人・ごみ収集車の人・町内会の人・各家庭である。子どもたちも普段出している「ごみ」を媒体として，これらの人々の努力や思い・願いを理解することにより，地域社会の一員として自分たちができることを考えさせたい。

最近では，分別がしっかりされていないことにより，ごみステーションに置き去りにされたごみを見かけることが多くなった。ごみ処理に関わる人々の願いはまさにそこにあらわれており，「リサイクル率ではなく，分別率の向上」「高いごみ処理費用削減のための意識の向上」をめざし，日々奮闘されていると言うことである。リサイクル率ではなく分別率を，そして１人１日６０グラムの削減で処理費用が１０％削減できることを知ることにより子どもたちの意識の向上を促したい。

【実態と目指す子ども像，基礎基本を重視した教材化の構造図】

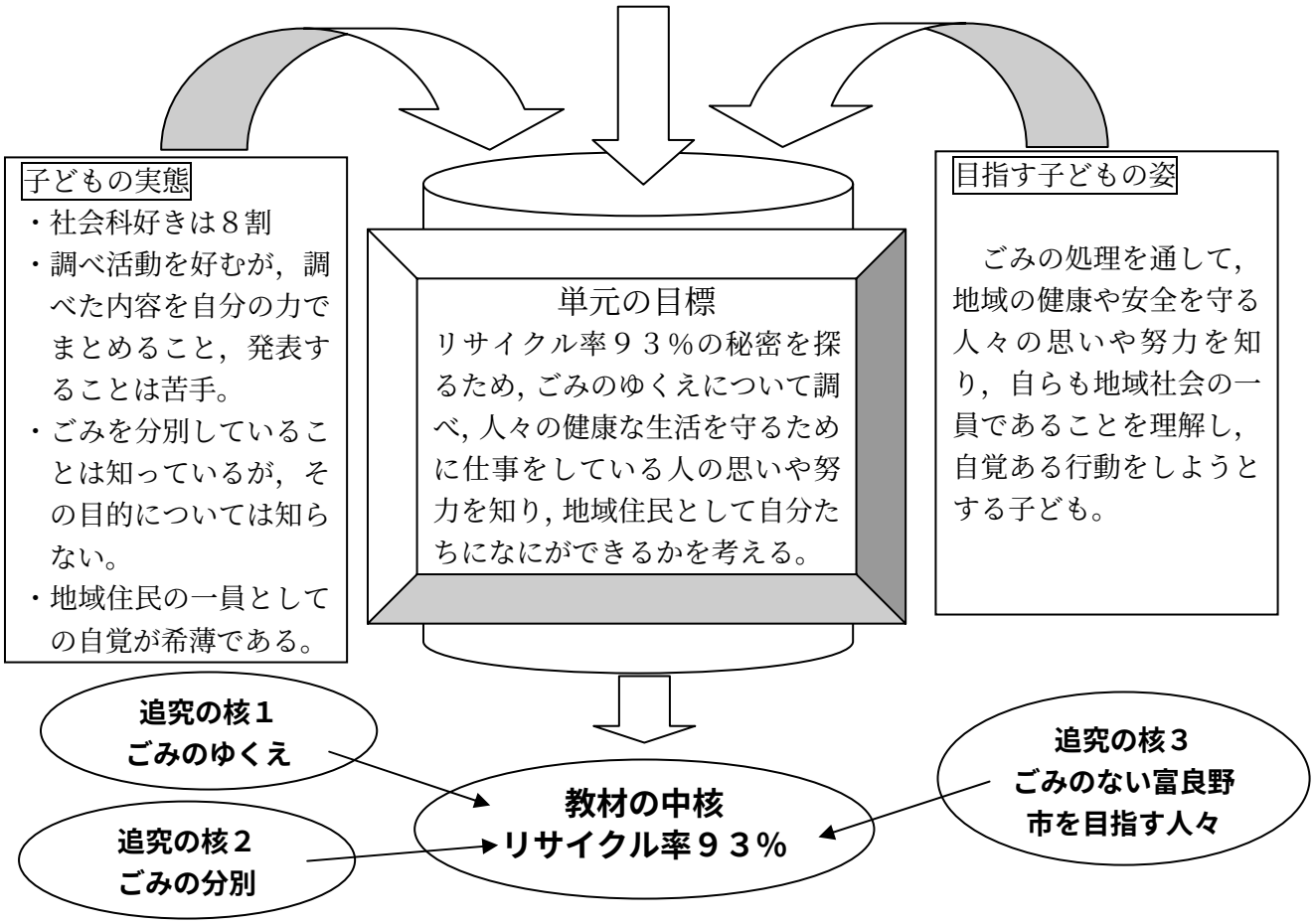
学習指導要領　目標と内容

目標（１）地域の産業や消費生活の様子，人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし，地域社会の一員としての自覚をもつようにする。

内容（３）地域の人々の生活にとって必要な飲料水・電気・ガスの確保や廃棄物の処理について次のことを見学したり，調査したりして調べ，これらの対策は地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。

定着させたい基礎的・基本的な内容

① 施設の見学やインタビューを通して，その工夫や努力を追究すること。
② 施設見学を通して気づいたことやわかったこと，思ったことをノートにまとめ，発表することができること。
③ ごみ処理に関わる人の願いや努力に気がつき，その思いを理解すること。
④ ごみに対する人々の願いから，自分ができることを考えること。

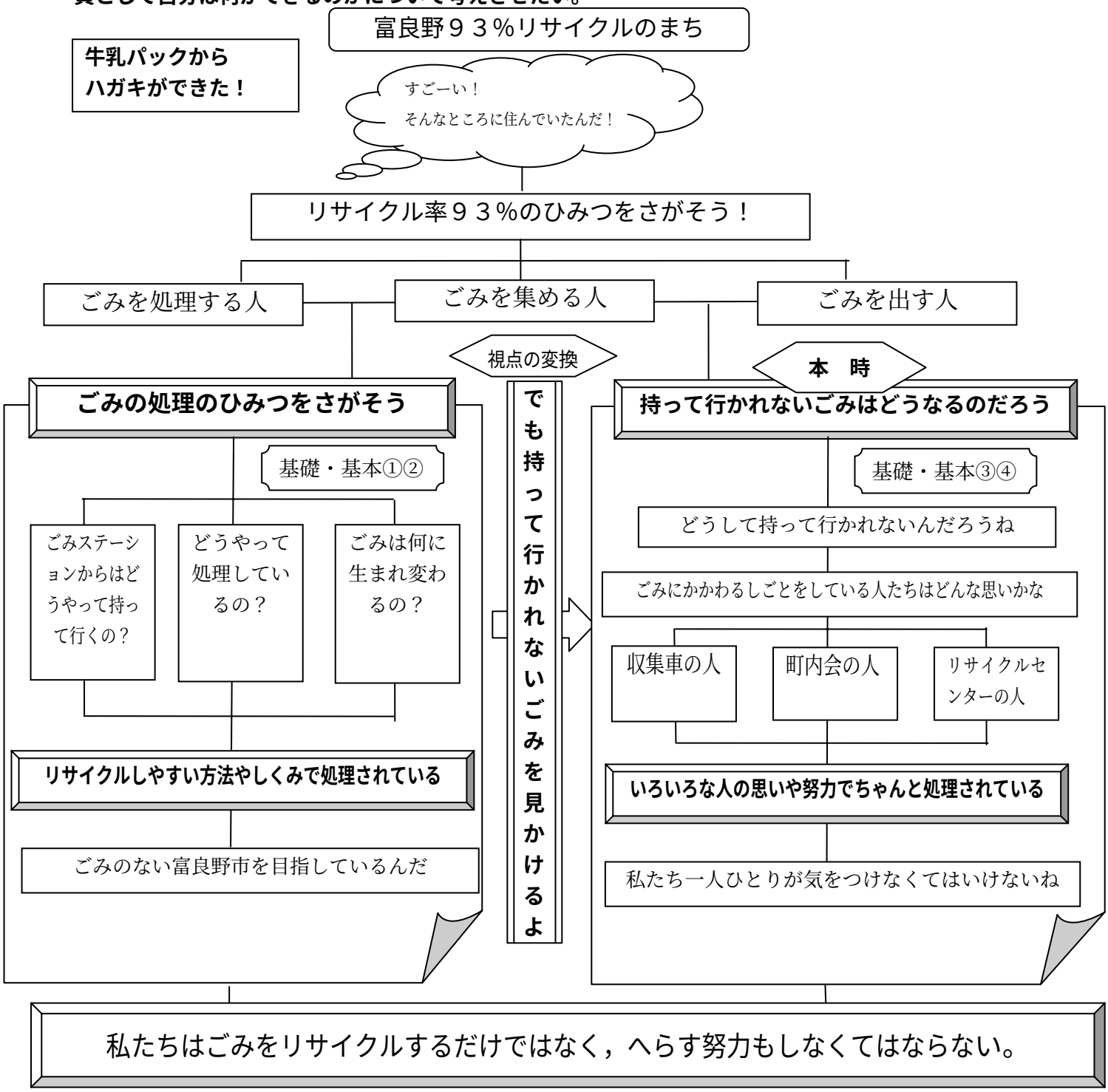


（２）事象と自分とのかかわりを深め，学びを自分ごととする学習の構成

ごみの処理に取り組む人々の思いや努力を知ることにより，人々の健康な生活や安全について考えることができるよう「①リサイクル率９３％」「②きちんと分別されていないごみを町内会・収集車の人・リサイクルセンターの人が再分別している」という２点に着目し，学習を構成した。「人」をより焦点化して取りあげることで，子どもたちに自分も社会の一員であることを考えさせたい。また，現在，富良野市のプラスチックごみの分別が徹底されていないことが問題視されている。地域が抱える諸問題について考察することで，さらなる理解をうながしたい。

「①リサイクル率９３％」については，調べ学習を核として構成し，富良野市のリサイクルのひみつを探ることでごみの処理の方法について学習したい。前述したが，子どもたちは調べ学習で得た知識・情報を活用してまとめ，自分の考えを，根拠をもとに表現することを苦手としている。複線化を図ることでお互いの情報や知識を共有する学習活動にしたい。

「②きちんと分別されていないごみを町内会・収集車の人・リサイクルセンターの人が再分別している」という構成は，「人の思いや営み」に主眼を置いた構成である。地域の人々の思いや努力を知ることによって，社会の一員として自分は何ができるのかについて考えさせたい。



（３）　社会を見つめ，関係を築く社会科授業の評価

①既知の見方や考え方のズレを生み，新たな疑問を生む場の設定

富良野市の高いリサイクル率や平成１３年から導入された１４分類のごみの収集の事実は子どもたちも知っている。しかし，「分別」してからどうなっているのか，どのようにリサイクルしているのかを知っている子どもたちはいなかった。

そこで，現在，総合的な学習の時間で行っている環境学習で，リサイクルセンターの職員の方の指導のもと，給食で捨てている牛乳パックからハガキを作る活動を行った。普段自分たちは「分別しているだけなのではないか」「リサイクルしているけど他のものは何になっているのか」など今までの生活をふり返った上で疑問が生まれる活動となった。

そこで，「リサイクル率９３％」という数字を提示し，富良野市においては「ごみの処理＝再資源化」となっていることのひみつを見学や調べ学習を通して理解することで，「ごみ＝捨てられるもの」という従来の見方を変えさせたい。

②児童の実態に重きを置いた単元の構成

本学級の児童は，自分の意見・考えを積極的に発言できる児童とそうでない児童の差が大きい。最近は，ノートにしっかりと自分の考えをかける児童が増え，特に社会科の前単元「水はどこから」では，自分の生活に立ち返って建設的な意見をまとめることができた。しかしながら，話し合いでお互いの考えを練り合うまでは達していない。

そこで，身近な題材であるごみを通して社会の一員であることを感じながら，見学やインタビューをして自己課題を追究し，調べたことをまとめ，自分で調べた内容を根拠として，自信をもった話し合いの場を作りたい。

③社会の一員としての目覚めを引き出し，地域の良さを認識する場の設定

本実践は富良野市が平成１３年から行っている「燃やさない・埋めない」を基本理念とした「１４種分別」を教材化し，それに携わる人々の工夫・思いや願いを理解することで，自分も社会の一員として生きていることを認識し，富良野市が全国に先駆けてごみ問題に取り組んでいることで地域の良さに気づくことをねらって構成した。

しかし，今年に入り，プラスチックごみの分別の規準が変更・強化された。このことにより，ごみステーションには持って行かれないごみ袋が多数見られるようになった。「ごみのない富良野市」を目指すリサイクルセンターや収集車の人がなぜ持って行かないのか，町内会の取り組みなどを学ぶことにより，ごみに関わる人々の願いや思いを認識できるようにしたいと考える。

４　単元の目標および評価規準

単元の目標	リサイクル率９３％の秘密を探るためごみのゆくえについて調べ，人々の健康な生活を守るために仕事をしている人の努力や思いを知り，地域住民として自分たちに何ができるかを考える。			
単元の評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	ごみやリサイクルについて自分の課題を解決するために進んで調べ，取り組もうとする。	ごみに対する人々の願いから，自分ができることを考える。	調査活動を元に，写真や資料を活用して，自らの課題に沿ってまとめることができる。	健康や生活を守るいろいろな人の努力によってごみ処理が行われていることを知る。

５　単元の指導と評価規準

【本時　９／９時間】

	学習過程	おもな学習活動	教師の働きかけ	評価規準
１	事象との出会い 課題設定	リサイクル率９３％という数字から富良野市のごみ処理について課題を見つける。	未習事項である９３％という数字を視覚的にとらえられるよう工夫し,「なぜ」「どうして」の疑問を具体的に持てるよう助言する。	関 ごみやリサイクルについて調べてみたいという意欲を高めようとしている。 （発言・ノート）
１	見学の計画	各々の課題設定について調べるための見学計画を立てる。	複線化された各々の課題を解決するために，しっかりとインタビューや記録をしなければいけないことを明確にする。	思 富良野市のごみ処理について自分の疑問を元に調べたいことを考えることができる。（ノート）
２	追究・解決 調査活動	見学に行く リサイクルセンター 記録・質問	自己課題解決に必要な情報を集められるよう助言する。	関 自分の課題を解決するために進んで調べようとしている。 （発言･ノート･行動観察）
３	追究・解決 制作活動	見学してわかったことや気づいたことをグループ毎に工夫してまとめる。	絵や写真・自分の記録を元に工夫してまとめることができるよう助言する。	技 調査活動を元に写真や資料を活用してまとめることができる。
１	発表・意見交流 課題解決	まとめたことを発表し,ごみのゆくえを通して気づいたことを話し合う。	ごみがどのように処理され，どんなものにリサイクルされるのかを正しく理解できるようワークシートを工夫する。	知 ごみ処理のシステムによって高いリサイクル率が成り立っていることを知る。
１ 本 時	発表・意見交流 発展・深化	最近のごみに関する問題について関わる人の思いや努力を考えながら，話し合う。	さまざまな立場の人の発言から，ごみ処理に関わる人の思いや努力を感じ取るように助言し，自分ごととしてとらえさせたい。	思 ごみに対する人々の願いを考え，自分は何ができるかを考えることができる。

６　本時の学習

（１）本時の目標

ごみに関わる人々の思いや願いを理解することができ，社会の一員として自分は何ができるかを考えることができる。（思考・判断）

（２）具体的な手立て～北の人間力にかかわって

リサイクルセンターで見学した内容から，富良野市の高いリサイクル率の要因やごみのゆくえについて学び，子どもたちは，センターの人の「ごみのない富良野市に」「限られた資源は有効に使う」という思いや願いを感じ取った。しかし，「ごみのない富良野市に」といいながら，最近はごみステーションに置き去りになったプラスチックごみ袋を目にする。なぜ，置き去りになっているのか。その理由に目を向けさせることで，人々の思いや努力について考え，ごみに対する自分の関わりを考えられる構成の工夫を図りたい。

子どもの活動と思考の流れ	教師の支援と評価
・リサイクルセンターの見学から「分別」「リサイクル」がしっかり行われたことを確認 ・赤いシールが貼られたごみ袋を提示 「見たことあるぞ！」「うちも貼られていた！」 「どうしてはられているのだろう」	○前時をふり返りながら，本時の課題を確認させる。
持って行かれないごみはどうなるのだろう。	
「どうして持って行かれなかったのだろう？」 ・ちゃんと分別していないから ・ごみが汚れているから	○持って行かれなかったごみ袋を用意 洗っていないもの・分別されていないものが入っているもの
「ごみが残ったらどんな思いがするかな？」 ①ごみを出した人 → ②ごみ収集車の人 → ③リサイクルセンターの人 → ④町内会長 →	○それぞれの立場での予想 「うちはちゃんと分別しているのに…どこかしら」 「きちんと洗ってくれたら…」 「きちんと分けてくれたら…」 「ごみステーションが汚いと…」　など
ずっと置かれっぱなしなのかな？まとめて処分するのかな？	
実際に話を聞いてみる →	○ビデオの視聴
いろいろな人の思いや努力でちゃんと処理されている	
私たち一人ひとりが気をつけなくてはいけないね	
「みんなにできることは何だろう？」 ・　きれいにする ・　しっかり分別しよう ・　お母さんが大変だから協力しよう 「最後にリサイクルセンターの堀さんからみんなにメッセージがあるよ」	ごみに対するそれぞれの人の思いを知り，自分はこれからごみとどう接するかを考えることができる。（ノート・発言） ○堀さんのメッセージの内容 ・　分別しっかりしてね ・　富良野はリサイクルの町だけど，費用も手間もかかるんだ。だからごみは減らしてほしい！
私たちはごみをリサイクルするだけではなく，へらす努力もしなくてはならない。	